

## 平成19年度におけるごみ減量等施策の成果

## 1 ごみ排出量の見込み

(単位：トン)

種別		平成18年度 実績量	平成19年度 見込み量	対前年
可燃ごみ	収集ごみ	76,788	76,823	35
	直接搬入	56,055	48,698	-7,357
不燃ごみ	収集ごみ	4,350	2,715	-1,635
	直接搬入	2,726	2,195	-531
資源ごみ	収集ごみ	9,191	9,334	143
	直接搬入	972	1,026	54
総排出量	収集ごみ	90,329	88,872	-1,457
	直接搬入	59,753	51,919	-7,834
	合計	150,082	140,791	-9,291

平成19年度に実施した一連のごみ減量・リサイクル施策を実施してきた結果、平成19年度のごみ排出量は、平成18年度と比較して、9,300トン程度の減となり、大幅な減量が見込まれます。

## 2 主要な施策の効果検証

## (1) 「直接搬入可燃ごみ」

平成19年度は、「直接搬入可燃ごみ」のごみ減量・リサイクル施策として、「事業系古紙の再資源化のための措置」、「事業系木くずの木質チップ化施設への誘導」、「事業用大規模建築物所有者等へのごみ減量等指導」などを実施してきたところです。

これらの施策の結果、平成19年度の「直接搬入可燃ごみ」の排出量は、平成18年度に比べ、7,300トン程度の減量が図られるものと見込まれます。

今後とも、これらの施策の維持を図り、効果の継続を確保する必要があります。

## (2) 家庭系硬質プラスチックの燃えるごみ化

埋立処分場の負担軽減などの目的で、平成19年4月からこれまで「不燃ごみ」として直接埋立してきたリサイクル困難な「硬質プラスチック」を、「可燃ごみ」として焼却する取組みを行っており、その結果、平成19年度の「収集不燃ごみ」の排出量は、前年度比1,600トン程度の減量化が図られる見込みです。

一方で、「硬質プラスチック」の受け皿である「収集可燃ごみ」の平成19年度収集量は、前年度比で30トン程度の増に止まるものと見込まれ、硬質プラスチックの分別区分変更による増加幅は、低く抑えられる見込みです。

## (3) 収集ごみの組成分析

平成20年2月に、「収集ごみ」のうち「可燃ごみ」と「不燃ごみ」について、組成分析調査を実施しており、その結果は次のとおりでした。

### 【燃えるごみ】

調査区分		計量結果(kg)	組成率(%)	測定容器(袋)
分別不徹底物	リサイクルするプラスチック	21.2	4.8%	33
	ペットボトル	0.4	0.1%	1
	古紙類	63.7	14.5%	31
	その他資源ごみ	0.6	0.1%	2
	燃えないごみ	0.9	0.2%	1
可燃ごみ	硬質プラスチック	5.6	1.3%	2
	軟質プラスチック	4.4	1.0%	7
	生ごみ	192.0	43.8%	26
	木くず	12.4	2.8%	3
	布類	28.2	6.4%	8
	その他可燃ごみ	107.4	24.6%	38
	規格袋(排出容器)	1.9	0.4%	1
調査総重量		438.7	100.0%	153

### 【燃えないごみ】

調査区分		計量結果(kg)	組成率(%)	測定容器(袋)
分別不徹底物	硬質プラスチック	25	4.5%	7
	燃えるごみ(硬質プラスチック以外)	63	11.4%	14
	かん類(飲料・缶詰)	16	2.9%	7
	スプレー缶	4	0.7%	2
	びん類	84	15.2%	10
	ペットボトル	0	0.0%	(2本)
	リサイクルするプラスチック	9	1.6%	8
	小型電器製品・金属類	58	10.5%	10
	廃乾電池	1	0.2%	1
	燃えないごみ	290	52.5%	37
規格袋(排出容器)		3	0.5%	5
調査総重量		553	100.0%	

「収集可燃ごみ」「収集不燃ごみ」とともに、「分別不徹底物」の組成が顕著であり、本来「資源ごみ」に分別すべきごみの混入が多く、特に「燃えるごみ」には「古紙類」が、「燃えないごみ」には「びん類」や「小型電器製品・金属類」が多く混入されている。

ることが分かります。

分別徹底のため、新たな施策を講じる必要があります。

### 3 一般廃棄物ゼロ・エミッション推進事業の実施

埋立処分場の負担軽減のための一連の再資源化等施策である一般廃棄物ゼロ・エミッション推進事業については、平成19年度において、次の施策を実施しました。

#### (1) 飛灰の再資源化

南北清掃センターの焼却残渣の一つである飛灰について、本年度から市内の製錬所における金属回収等再資源化措置を行っています。

本施策により、平成20年2月までに3,980トンの埋立量の削減が図られています。

#### (2) びん選別残渣の再資源化

びんの選別処理の過程で発生するガラス残渣について、一部を民間事業者に引渡し、道路路盤材の材料として有効利用を図りました。

#### (3) 金属キャップの再資源化

かんやびんの資源選別の過程で発生する金属製キャップの全量を金属回収し、埋立処分量の削減を図りました。